

# 平成30年度学校評価 「自己評価」 「学校関係者評価」 報告

いわき市立勿来第二小学校

※ 評価は、基準の平均点 4:よくあてはまる 3:ややあてはまる  
2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない

## 1 教育活動に関すること

項目	小項目	評 定 ±昨年度比	学校関係者評価 (平均)	自己評価の結果	自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策
教育目標・評価	① 実態や要望を踏まえた教育目標	3.5	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校評価の観点について精査し、具体的な評価方法をとっていったことで客観的に評価することができた。</li> <li>● 教育目標と重点目標を新指導要領に沿ったものとする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育目標は児童や保護者にも浸透しているが、教育目標とその重点目標を新指導要領に沿ったものとし、新しい教育に合ったものを進めていく。</li> </ul>
	② 教育種別・教育種別ごとの自己評価	3.6			
	③ 教育目標等を踏まえた評価項目	3.5			
	④ 教育活動改善に役立つ学校評価	3.6			
教育課程	① 学習指導要領の趣旨徹底	3.8	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新学習指導要領の移行期となっているが、計画した教育課程を滞りなく進めていくことができた。</li> <li>● 特色ある学校の評価項目が低く、学校の教育体制が一般化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導要領の完全実施に向けての教員の理解と研修を重ね、しっかりとした準備をしていく。</li> <li>○ 本校の児童の強み・弱みをしっかりと把握し、本校の強みを生かした特色ある学校づくりをしていかなければならない。</li> </ul>
	② 児童・保護者の願いを把握した教育活動	3.3			
	③ 特色ある学校	3.2			
	④ 年間指導計画に沿った計画的な指導	3.8			
学習指導	① 児童が意欲的に取り組む授業	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小教研家庭科授業研究公開のため、教職員・PTA一丸となり、研究を進めることができた。</li> <li>○ 道徳の教科化となり、特に評価について共通理解を図ることができた。</li> <li>● 授業スタンダードを参考にした授業については、研修等を通して理解を深めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の人材や施設設備を見直し、地域素材の積極的な活用を図る。</li> <li>○ 読書習慣の育成が児童と保護者の間で認識に違いが出ているため、学校からの情報を発信して保護者への啓もうと理解を深めていく。</li> <li>○ 問題解決的な学習を推し進めていくことで、より一層主体的な学習ができるよう研修を図る。</li> </ul>
	② 授業スタンダードを参考にした指導	3.0			
	③ 読書の育成を重視した学習の展開	3.3			
	④ 学習形態の工夫改善	3.3			
	⑤ 地域素材の教材化	2.9			
	⑥ 学習指導要領の移行に沿った指導	3.1			
	⑦ 読書習慣の育成と環境整備	3.1			
	⑧ 外国語活動の充実	3.0			
	⑨ 特別の教科道徳の充実	3.1			
	⑩ 道徳性の育成	3.3			
	⑪ よさを知り夢や希望を持つ児童の育成	3.4			
	⑫ 認め高め合う児童の育成	3.4			

生徒指導	① 積極的な生徒指導	3.6	3.5 ±0	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年度と比較すると家庭との連携でポイントが上昇しており、担任をはじめ、教職員が保護者等との連携を重点的に実施できていた。</li> <li>○ 児童との触れ合いを大切にし、授業や学校生活の中で、細かな様子を観察することができ、生徒指導へとつなげることができた。</li> <li>● 教職員だけでなく、保護者のいじめに対する認知についても、さらに理解を進めていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童一人一人の理解を深め、より適切な指導・援助ができるように、担任と児童が一緒に遊んだり話したりする機会を意図的にもつようにする。</li> <li>○ 新たないじめ防止基本方針を策定し、一層組織的・効果的な対応を図る。</li> <li>○ いじめの認知に関しては、保護者へのいじめの認知に対する理解を図るために、より積極的に情報を発信していじめの認知への理解と組織的な対応について共有化を図る。</li> <li>○ 不登校児童が発生した場合の支援体制の強化と再構築を図っていく。</li> </ul>
	② 問題行動への早期で組織的な対応	3.6				
	③ 家庭との緊密な連携	3.2				
	④ 関係機関との連携	3.3				
	⑤ 人間的ふれあいを大切にした指導	3.6				
	⑥ 自己存在感を味わわせる指導	3.4				
	⑦ プライバシー、個人情報の保護管理	3.8				
	⑧ いじめについての理解、認知、組織的対応	3.7				
	⑨ 不登校の予防・解消に向けた組織的対応	3.5				
特別活動	① 魅力ある学校行事への工夫・改善	3.6	3.5 +0.1	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 魅力ある学校づくりのために、学校行事が児童にとって魅力あるものとなるような学年発達段階に応じて適切に工夫・改善を行っている。また、命の尊さや思いやりについて、学ぶ機会を設けている。</li> <li>● 児童数の減少によるクラブの種類の減少があり、児童にとっては残念なものとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新学習指導要領の完全実施にあたり、授業時数の増加のため、行事の精選・改善が必要である。</li> <li>○ 主体的な活動を促すため、児童自らが自主的に企画し、実践することができるような時間の確保をしていく。</li> </ul>
	② 主体的な活動、クラブ活動を目的支援	3.4				
特別支援教育	① ニーズに応じた対応	3.6	3.5 +0.2	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別な支援を必要とする児童に対して、支援員や養護教諭の協力の中、学校全体で支援対応をしていく体制が整っている。</li> <li>● 個別の指導計画・支援計画の有効的な利用と記録の累積ができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援コーディネーターを中心とした体制の強化と支援を要する児童の記録の累積を重ね、継続的な指導ができるようにする。</li> <li>○ 医療機関や総合教育センターとの連携をより緊密なものとし、連動した支援を行っていく。</li> </ul>
	② 学校全体での対応	3.7				
	③ 個別の指導計画、教育支援計画の作成	3.1				
	④ 医療、福祉などの関係機関との連携	3.7				
学校関係者評価（自由記述）			<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習指導の自己評価がやや低くなっており、新学習指導要領の移行期間ともなっているので、子どもたちのために今後も先生方の研修をはかってほしい。</li> <li>○ 帰宅時間をなかなか守れない児童も見られた。しかし、児童だけでなく、保護者も容認している面もあるので、児童の安全面等を考慮して保護者への呼びかけもするとよいだろう。</li> <li>○ 集団登校時の歩き方（歩道のない所）について再指導をお願いしたい。</li> </ul>			

## 2 学校経営に関すること

項目	小項目	評 定 ±昨年度比	学校関係者評価 (平均)	自己評価の結果	自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策	
組織運営	① 教職員の意見が反映された学校運営	3.8	3.7 +0.2	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師間の信頼関係に基づいた教育活動が推進されている。</li> <li>○ 教職員の服務規律への自覚が高く、服務が適正に行われている。また、年間を通して、会計事務が適正に行われている。</li> <li>● 子どもとふれあう時間、事務処理をする時間、教材研究をする時間等加味した働き方についての研修が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 勤務時間の適正な管理を継続していくことで、時間外勤務のさらなる減少を目指すとともに、勤務時間内で仕事ができるような働き方について研修を行っていく。</li> <li>○ 各校務分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能するように、校務分掌の見直しや任命を進めていく。</li> </ul>
	② 適性・能力に応じた校内人事・校務分掌	3.4				
	③ 各分掌や学年間の円滑な連携	3.4				
	④ 気軽に話し合える職場の人間関係	3.7				
	⑤ 信頼関係に基づいた教育活動	3.7				
	⑥ 教職員の服務規律への高い自覚	3.7				
	⑦ 適切な会計事務	4.0				
環境整備	① 校舎内外の清掃・整理整頓	2.7	3.2 -0.1	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設設備の管理・営繕は市教委と相談しながら優先順位を決めて計画的に実施することができた。</li> <li>● 清掃・整理整頓のポイントが低いため、改善をしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 清掃の仕方の共通理解を図るとともに、学年の実態に応じた清掃指導をするとともに、児童・教職員とも整理整頓に対して日常的に意識ができるように声をかけていく。</li> <li>○ 校舎の老朽化が見られるので、引き続き日常的な点検を行い、危険箇所の早期発見・対策を行っていく。</li> </ul>
	② 特別教室の有効活用	3.4				
	③ 施設設備の管理・営繕	3.9				
	④ 備品・教材・教具の十分な活用	2.7				
保健・安全管理	① 保健に関する指導や相談	3.5	3.7 +0.2	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常の健康観察が適切になされ、保護者への啓蒙など感染症対策を行うことができた。</li> <li>○ 学校災害マニュアル、不審者侵入・不審者事案対応マニュアルの改善・整備をし、教職員間で共通理解を図ることができた。</li> <li>● 新たな脅威が発生した場合や新しい機材を使用した訓練等がなされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害等が発生した場合を想定した訓練を継続的に行うとともに、新しく交換した機材を用いた訓練を行い、全員が使用できるようにしなければならない。</li> <li>○ 肥満及び歯など学校課題に対する取り組みをより充実させる。</li> </ul>
	② 日常の健康観察や健康診断、疾病予防	3.7				
	③ 学校事故への明確な対応・訓練	3.8				
	④ 安全点検による危険の排除	3.8				
	⑤ 家庭や地域関係機関との連携した取組	3.7				
研 修	① 研修による授業内での活用	3.9	3.7 +0.1	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小教研家庭科部会授業公開を行い、全職員で一丸となって研修に取り組むことができた。</li> <li>● 本校の課題でもある主体的な児童の育成に対する具体的な実践がなされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本年度の研究公開の実績を加味しつつ、新しい課題に対して真摯に向き合い、勿来二小の主体的な児童の育成のための研究テーマを設定する。</li> <li>○ 授業改善のために自主的・組織的な研修の機会を設け、自己研鑽できる場を設ける。</li> </ul>
	② 組織的・計画的な校内研修の推進	3.9				
	③ 授業改善・資質向上に役立つ校内研修	3.6				
	④ 外部研修伝達の機会の確保	3.4				

連 携	① 地域や住民との連携	3.5	3.3 -0.1	2.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域防犯組織「関の子」との連携を図り、児童の安全確保に努めることができた。</li> <li>● PTA 組織との関わりが少なかった。</li> <li>● 小中連携事業に関して、計画的な運営が必要であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中連携や幼小連携等、計画的な運営ができるよう双方での話し合いの場を設け、年間計画の作成をしていく。</li> <li>○ PTA 組織との連携強化のため、定期的な役員会の実施をしていく。</li> <li>○ いわき市の「部活動運営方針」に則り、本校の「部活動に係る活動方針」を策定し、適切に特設クラブを進めていくとともに、保護者や地域との連携を図っていく。</li> </ul>
	② PTA活動への協力と協働的な活動	3.3				
	③ 幼稚園・中学校との連携	3.2				
不 祥 事 絶 無	① 法令遵守	3.8	3.9 +0.1	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内服務倫理委員会にて、外部講師（南署交通課長）を招聘し、客観的な立場からの話し合いをすることができた。</li> <li>○ 一人一人の意識も高く、不祥事及び事故絶無を期し風通しのよい規律ある温かな職場づくりに努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引き続き、不祥事及び事故絶無を期し、風通しの良い規律ある温かな職場づくりに努める。また、校内服務倫理委員会でも、外部講師を招聘する計画を立てていく。</li> </ul>
	② 風通しの良い環境	3.9				
	③ 自分事としての意識	3.9				
学校関係者評価（自由記述）		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ PTA 役員と保護者の間での連携がうまくいっていないように見える。また、学校と PTA との関わりも希薄になっているように感じるため、学校を中心として、PTA の活動を活性化させてほしい。</li> <li>○ 地域行事へ保護者と児童の参加が少なくなってきたので、学校からも協力や参加について呼びかけていくことで地域のよさを伝えていけるようにできればよいだろう。</li> <li>○ 小中連携事業が、教育課程の年間計画に位置付けられていなかったため、場当たりの取組になってしまった面があったので、次年度は計画を立てて教育課程に明確に位置付けて実施していきたい。</li> </ul>				